

クロノメトリ・フェルディナント・ベルトウーの発表会 現代に甦った18世紀のフランス海軍を支えた時計師の名



マリンクロノメーターに因んで天王洲運河に浮かぶ船上イベントスペースのT-LOTUSで開催。



ブランドの背景を自ら説明するために来日した社長のカール・フリードリッヒ・シヨイフレ氏。

スイス・フルリエにある、シヨイフレ氏が監修する時計博物館の「L.U.CEUM」が所蔵する、1777年にフェルディナント・ベルトウーが製作したマリン・クロックの“M.M.No.6”。下の懐中時計も同博物館所蔵。



フェルディナント・ベルトウーの弟子のジャン・マーティンが1806年に製作した“フェルディナント・ベルトウー アストロノミカル ポケットウォッチ No.3”。



今年はSIHHでレギュレーターのCal. FB-T.F.C.R.(49石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約53時間)を発表。上はブロンズ・ケースを採用した限定5個の最新作。



2015年に発表された第一作目の“クロノメーター FB 1.2”。フュゼ・チェーンとトゥールビヨンを備えた手巻きムーブメントを搭載する。

2013年の終わりにシヨパール共同社長のカール・フレドリッヒ・シヨイフレ氏はクロノメトリ・フェルディナント・ベルトウーを創業した。その2年後に最初の時計の「FB 1」を発表。そして初出展した今年のSIHHではレギュレーターの「FB 1R」が登場した。4月17日、シヨイフレ氏が来日し、日本で初めてのプレゼンテーションが行われた。

「フェルディナント・ベルトウーはアラートルイ・ブレゲと同じ時代にフランスで活躍し、ブレゲはベルトウーの工房で10年近く師事しました。海軍のためにマリンクロノメーターを製作するなど、非常に重要な役割を果たしました。その彼はシヨパールが工房を設けているフルリエから5kmほどの村の出身です。シヨパールのL.U.CEUMには彼が製作した複数の時計があります。この偉大な時計師が忘れ去られないためにも、彼の名前のブランドを作った」と語った。

「彼が生きていて、もし腕時計を作ったら」を前提に時計開発を行っているという。自社の博物館が所蔵するベルトウーの時計が参考書であることは言うまでもない。(T.K)